

平成 28 年度石見銀山基金事業の選定結果について

平成 28 年 1 月 23（土）に開催した石見銀山基金事業公開審査会により、平成 28 年度 4 月以降に実施する石見銀山基金事業について、候補事業（要望事業）の公開プレゼンテーションと審査を行った。

今回、審査の対象となったのは、一般事業初挑戦枠の 3 団体から要望のあった 3 つの事業で、審査の結果、2 事業が基準点以上の評価を受け、石見銀山基金事業として選定された。

以下、関連資料

- ・ 石見銀山基金事業選定委員会委員名簿
- ・ 一般事業初挑戦枠リスト
- ・ 一般事業初挑戦枠 選定結果
- ・ 選定基準

■石見銀山基金事業選定委員会委員名簿

(任期：平成25年 6月 1日～平成28年 3月31日)

氏名	職業・所属団体・役職	備考
渡邊 一正	NPO 市民文化財ネットワーク鳥取 理事長	委員長
久保田 典男	島根県立大学 准教授	副委員長
高須 佳奈	島根大学 地域課題学習支援センター 副センター長 講師	
梅 恒雄	大田商工会議所 前専務理事	
椿 真治	島根県教育庁文化財課 調整監	
青木 裕志	大田市 副市長	

※石見銀山基金事業公開審査会（平成28年1月23日開催）

（出席）渡邊委員、久保田委員、高須委員、梅委員、椿委員

■ 一般事業初挑戦枠リスト

事業項目	申請団体名	事業名	事業概要・効果
一般事業初挑戦枠	石東地域古文書保存協会	石見銀山関係古文書史料集作成	<p>石見銀山関連の未翻刻の古文書について、その文面の写真撮影と翻刻を行い、写真複製と翻刻文を併載した書籍を作成する。対象とする文書は、役所の行政文書、支配下領内庄屋記載の文書を中心とする。作成した史料集は、広く市民が閲覧できるよう、図書館、公民館、大学、高校などに寄贈する。過去には、平成16(2004)年から37冊の史料集を自費出版し、大学、高校、公立図書館等に寄贈してきている。本事業によって、一般的には読解が難しい古文書を後世に伝えていけるようなかたちで資料化し、市民が手軽に読むことができるよう公開し、民間レベルでの石見銀山研究や、郷土教育の進展を期待する。</p> <p>今回の活動により、以下の事業効果が見込まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○寄贈先施設においては、多数の古文書史料を収蔵することにより石見銀山に対する関心を高める一助になるとともに、史料の比較検証の能率向上に繋がり、将来的には市民の石見銀山史料研究の拠点になり得る。 ○市民が図書館、公民館等当該資料等収蔵場所において石見銀山研究や郷土史学習の活用資料として日常的能率的に使用でき、当該研究学習の輪が広がり、郷土愛高揚の一助にもなる。 ○大学、高校、中学校の授業やクラブ活動において石見銀山や郷土史について学習するにあたり、そのテキスト、副読本として活用することにより青少年の郷土愛醸成一助の役割を果たせる。 ○これら資料を市民が多くの場所で身近に活用できる環境を整えることにより、市民の古文書史料に対する関心を高め、新たな古文書史料の発見・保存に結びつき、郷土の貴重な歴史的財産の散逸を阻止することができる。 <p>【事業費 440,000円／補助金要望額 300,000円】</p>
	ひまわり会	ヨズク茶屋10周年記念事業	<p>平成19年石見銀山が世界遺産に登録された事に当たり、街道の中間に位置する西田地区に於いて、休憩ができる場所がないかと考え、若い婦人を対象に「ひまわり会」を立ち上げ、街道(大森～沖泊コース)を歩く人達へおもてなしをしようと5月の連休にコーヒースービス等、笑顔でお迎えをしたのがヨズク茶屋の始まりで、平成28年に10周年を迎える事となり、企画した。</p> <p>ヨズク茶屋を続けることにより、西田地区に特産品として古くから作られていた西田葛を使つての「葛がゆ」をメインに食事の提供や有形文化財に指定された「ヨズクハデ」を見て、西田地区を知ってもらう機会となり、銀山街道ひいては大森銀山への関心をも強く感じていただける事と思う。人口減少が著しい西田地区に於いて、私達女性の働きで地元大田市はもちろん、県内外からもたくさんの方々に来ていただくまで、地元の活性化に役立っていききたいと思う。10周年の記念イベントとして、「長坂先生」を招いて来訪者に喜んで頂き、大きくアピールをし、今後も続けていきたいと思っている。</p> <p>【事業費 154,000円／補助金要望額 154,000円】</p>
	ぎんざん留学実行委員会	<p>①石見銀山を守り、学ぶ「ぎんざん留学」ステイ事業</p> <p>②石見銀山PR大使づくり</p>	<p>①石見銀山を守り、学ぶ「ぎんざん留学」ステイ事業について、国内外から参加者を募り、石見銀山周辺の竹林整備による遺跡保護活動、環境イベントへの出展、環境啓発活動を行う。</p> <p>②石見銀山PR大使づくりについて、SNS(Facebook)にて石見銀山での活動や大田市の魅力を写真付きで日本語・英語にて国内外に発信する。</p> <p>この①・②の活動を行うことにより、遺跡周辺の景観の向上(繁茂する竹の伐採で遺構地形が見えるようになる)や石見銀山のファンが増え(保全に携わったという思い出、竹資源の活用)、石見銀山とその周辺の環境問題について学ぶことができる。</p> <p>PR大使という肩書をもった参加者が、より石見銀山に愛着を持ち、積極的にPRを行うことができ、国内外の人々に石見銀山の魅力を伝え、来訪者増につなげることができる。</p> <p>【事業費 300,000円／補助金要望額 300,000円】</p>

※事業費／補助金要望額は、公開審査会時のものです。

■ 一般事業 初挑戦枠 選定結果

事業項目	申請団体	事業名	評価点	採否	備考
			平均点 (100点満点)	採 択 ○ 不採 択 ×	
一般事業 初挑戦枠	石東地域古文書保存協会	石見銀山関係古文書史料集作成	88.0	○	
	ひまわり会	ヨズク茶屋 10周年記念事業	79.0	○	
	ぎんざん留学実行委員会	①石見銀山を守り、学ぶ「ぎんざん留学」ステイ事業 ②石見銀山 PR 大使づくり	47.0	×	

※ 平均点の6割（60点）以上の点数を獲得した団体の中から、獲得点数の高い順に選定（事業採択）

■一般事業 初挑戦枠 選定基準

選定委員会は、次の評価項目について審査し、総得点の6割以上の点数を獲得した団体から順次、獲得点数の高い順に選定事業に選定します。

(1) 評価項目及び評価の着眼点

評価項目	評価の着眼点	最高点
①公益性	I ニーズが高い事業か。 II 幅広く地域、社会に貢献する活動か。 III 個人や団体の利益事業ではないか。	30
②石見銀 山らしさ	I 石見銀山の歴史、文化、自然、社会基盤等を活かす事業か。 II 石見銀山の新たな価値を見出し、地域への誇りを醸成する取り組みか。	20
③事業の斬 新さ	I この地域に新たに価値を付加する事業内容か。 II 新たな視点、発想、工夫やアイデアの企画、提案で独創性や創造性を感じられるか。 III 事業が具体的かつ実効性を持つものか。 IV 実施により想定される効果が期待できるか。 V 費用に対しての効果が認められるか。	50

(2) 評価方法

(1) の評価項目毎に別に基準を設けて、評価で行います。

(各選定委員の最高点：100点(3項目))